日本と中国の庭園の空間構成に関する比較研究

-江戸時代の京都庭園と明後期の蘇州庭園を事例として

研究代表者　方　　愷
（理工学術院総合研究所　次席研究員）

１．研究課題

歴史的な資料分析により、日中庭園の源流と発展には密接な関係があることが示されている。本研究では、既往研究の限界を突破して、日中庭園を相互に関連する連続的な進化体として捉える。また、庭園と山水画の関係は密接であり、両者は山水の模倣と抽象であることから、本研究では中日庭園がともに絵画理論の影響を受けていることが示されている。そのため、本研究では絵画理論を参考に庭園の研究を展開している。庭園は「東洋における空間の建築学」であり、本研究の中心概念である「空間構成」は、建築学の空間理論の新しい視点を用いて庭園の研究を展開する試みである。

２．主な研究成果

2022 年度における主な業務は、全体的な研究フレームワークの順調な推進と、既に収集した日中庭園の現地測定データのさらなる補足、そして文献の収集、整理、分析であった。

まず、新型コロナウイルスの影響で前期に実施できなかった中国の江南地域の庭園に対する調査を順調に完了した。2023 年の 3 月と 4 月にかけて、4 週間をかけて蘇州の庭園について適度に拡大調査を行い、庭園都市の調査範囲を杭州、湖州などの江南地域、つまり重要な庭園が繁栄していた地域にまで拡大した。その理由は、私が研究の過程で、南宋時代の禅思想が日本の庭園に大きな影響を与えたことを発見したからである。そして、杭州や湖州などの地域は南宋禅思想の伝播の重要な地域であった。

次に、文献の収集と整理も非常に良い進展を遂げ、文献中の造園法と実際の造園現場を充分に比較し、重要な分析と結論を得た。また、日中の伝統的な山水画における空間の観点からの論述も予想通りの進展と成果を達成した。

最後には、本研究の最も重要な部分、全体的な研究フレームワークの推進である。主に以下の三つの方面がある：

1）三遠理論を手がかりにして、京都の庭園における空間要素の組み合わせ関係を整理した。三遠は庭園と絵画の最も基本的な要素空間関係の組み合わせの方法で、空間構成において鍵となる役割を果たす。これにより、三遠理論を用いて異なる歴史期における京都庭園の空間構造特徴を分析する段階的な結論が形成された。

Ref No.	Garden Name	Construct Period
01	Nanzenin Temple Garden	Late Kamakura period
02	Tenryuji Temple Sogenchi Garden	Muromachi period, 1339
03	Toujin Temple Fuyochi Garden	Muromachi period, 1341
04	Kinkakuji Temple Garden	Muromachi period, 1397
05	Taizoin Temple Garden	Muromachi period, 1404
06	Kogenji Temple Tiger's Roar Garden	Muromachi period, 1429
07	Shorenin Temple Ryujin-noike Garden	Muromachi period
08	Daisenin Temple Shoin Garden	Muromachi period, 1513
09	Sanbaoin Temple Garden North Pond	Azuchi-Momoyama period,1598
10	Sanbaoin Temple Garden Middle Pond	Azuchi-Momoyama period,1598
11	Sanbaoin Temple Garden South Pond	Azuchi-Momoyama period,1598
12	Keishunin Temple Wabi Garden	Azuchi-Momoyama period
13	Entokuin Temple Garden	Early Edo period, 1605
14	Kodaiji Temple Garden	Early Edo period, 1606
15	Ryosokuin Temple Hangesho Garden	Early Edo period
16	Jojuin Temple Garden	Early Edo period
17	Honpoji Temple Garden	Early Edo period
18	Chionin Temple Hojo Garden South Pond	Early Edo period
19	Chionin Temple Hojo Garden North Pond	Early Edo period
20	Sanzenin Temple Shuheki-en Garden	Early Edo period
21	Sanzenin Temple Yusei-en Garden	Early Edo period
22	Chishakuin Temple Garden	Early Edo period
23	Konchiin Temple Garden	Early Edo period
24	Sennyuji Temple Garden	Early Edo period
25	Myomanji Temple Garden	Edo period, 1653
26	Manshuin Temple Garden	Edo period, 1656
27	Rengeji Temple Garden	Edo period, 1668
28	Reikanji Temple Garden	Edo period
29	Jikkoin Temple Keishinen garden	Edo period
30	Anaoji Temple Garden	Edo period
31	Ninnaji Temple North Garden West Pond	Edo period, 1690
32	Ninnaji Temple North Garden East Pond	Edo period, 1690

図１.京都の庭園リスト：張文達より

2）景を単位に、庭園図集中の庭景の形式と接続の構造的分析を通じて、物語性の構造の意味で異なる歴史時期の「庭景」の分類をまとめることを目指している。そして、借景、対景などの組景手法を整理し、景物の要素構成や構造特徴を探求した。さらに、類型学的な手法を組み合わせて、庭園と伝統的な山水画の空間構造を比較し、類型化、系統化の比較と総括を行った。

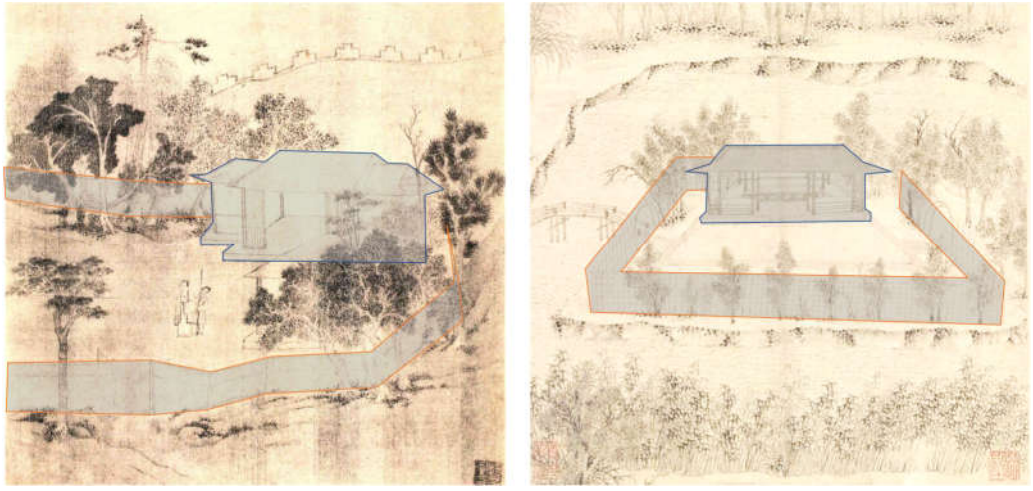

図２.拙政園の絵画の分析：張文達より

図３. 無鄰菴における借景の分析

3）類型化、系統化された庭園要素の形態、組合せ手法、そして構造的な接続を修辞手法と見なす。修辞手法と空間概念の比較分析を通じて、最終的には伝統的な山水画と庭園の中の異なるレベルの空間修辞タイプを解読することができた。

日本の現地データ収集作業はすでに計画以上に完成した。日本の庭園の保存数が多く、データ量が充分であり、また、京都地区の造園は周辺の奈良や滋賀などと密接な関連があるため、調査の過程で地域範囲を適切に拡大し、研究結論の全体性と精度の基盤を築いた。また、続く深度研究の良好なスタートを切った。

同時に、中国部分の現地データ収集作業もすでに超過して完成した。そして、研究の地域範囲を杭州、湖州などに拡大した。

図４. 湖州宜園と蘇州耦園

最後に、全体的な研究フレームワークは非常にスムーズに進み、すでに構築が完了した。そして、初期の分析結論がすでに形成され、積極的に論文の投稿と発表を試みている。

３．共同研究者

古谷　誠章（創造理工学部・建築科・教授）
藤井　由理（創造理工学部・建築科・教授）
王　　薪鵬（創造理工学部・建築科・講師）
王　　欣　（中国美術学院・建築科・準教授）

尼崎　博正（京都芸術大学・日本庭園歴史遺産研究センター名誉教授）

４．研究業績

4.1　学術論文

(共著)(査読付)（SCOPUS 掲載）（Web of Science 掲載）「Physical environmental factors that affect users' willingness to visit neighbourhood centres in China」 Zhang Zhehan, **Fang Kai,** Zhang Suihan, Zhang Wenda, Wang Xinpeng, Furuya Nobuaki. *Building Research and Information*, 2023

(共著)(査読付)（SCOPUS 掲載）（Web of Science 掲載）「The transformation of the bright-dark space in Chinese traditional dwellings」 Zhu Guoqing, Wang Xinpeng, **Fang Kai,** Zhang Wenda, Zhang Zhehan, Furuya Nobuaki. *Journal of Asian Architecture and Building Engineering*, 2023

(共著)(査読付)（SCOPUS 掲載）（Web of Science 掲載）「A micro-scale study on the spontaneous spatial improvement of in-between spaces in Chinese traditional districts considering the relationship between modifications and encroachment」 Zhang Zhehan, Wang Xinpeng, Zhu Guoqing, Zhang Wenda, Chen Lin, **Fang Kai(責任作者)**, Xie Yunfei, Shen Muhan, Furuya Nobuaki. *Journal of Asian Architecture and Building Engineering*, 2023, 22(2), pp. 783–801

(共著)(査読付)（SCOPUS 掲載）（Web of Science 掲載）「The spatial feature and use pattern of external space in Chongqing traditional urban settlement」 Chen Lin, **Fang Kai**, Wang Xinpeng, Zhang Wenda, Zhu Guoqing, Zhang Zhehan, Furuya Nobuaki. *Journal of Asian Architecture and Building Engineering*, 2023, 22(1), pp. 125–138

4.2　総説・著書

4.3　招待講演

4.4　受賞・表彰

4.5　学会および社会的活動

５．研究活動の課題と展望

全体的な研究フレームワークが順調に進展したことにより、次の研究作業に向けた良好な基盤が整った。今後の研究作業は主に以下のいくつかの点に集中する：

まず、調査資料をさらに整理、比較、分析する。これには、日中の庭園事例の比較と深度分析、修辞手法のまとめ、空間観念の深度探討が含まれる。特に、禅宗思想の伝播や山水画理論の伝播などの理論的な洞察を重点的に分析する。

また、日中の庭園の違いと関連性をまとめ、史料を元に両者間の存続と脈絡を解釈する。同時に造園文献の伝播を重点的に調査し、伝播の経路と系譜について深く研究する。これにより、日中庭園間の関連性を明らかにする。